

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2277102361		
法人名	医療法人 長啓会		
事業所名	グループホーム双葉の家 (1号館)		
所在地	浜松市南区古川町234		
自己評価作成日	平成28年8月15日	評価結果市町村受理日	平成28年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JivoxvoCd=2277102361-008&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JivoxvoCd=2277102361-008&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年9月27日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「双葉の家」は開所より13年目を迎え、よりよい介護をめざして取り組んでまいりました。「双葉の家」ではレクリエーションに力を入れています。毎日午前中の日課としてレクを位置づけ、入居者とその日の職員が一同に会し、ラジオ、リハビリ体操、ボール蹴り、カラオケ、足首運動、散歩など、楽しみながら、下肢筋力の低下防止、認知症の進行予防に努めております。毎日のレクを行う利点は入居者同士が顔見知りになり、孤立させない事、仲間作りが出来る事、職員が協力し合う事が挙げられます。管理者の指導力の下、入居者、職員が大きな家族となり、調和のとれた安らぎのあるホームとなっています。近隣からも、高い評価を頂いています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域とのつながりも濃く、利用者との散策には近所から気軽に声がかかります。白ねぎ、インゲン等野菜の差し入れは日常的で、介護用の靴や紙おむつのほか、いただいた手作り人形は事業所の玄関に愛らしく鎮座しています。下膳や洗濯干し、家事の手伝いと自分で出来ることは自分ですることが定着して効用感も高まるのか、仲間の不穩にはそっと寄り添い話相手になったり、何も言わずとも優しく見守っていたりと利用者のリレーションシップが維持されていて、数字としての介護度より心身状態がよりよく映ります。職員も利用者の意欲や温かな気持ちの伴う行動を有難く感じ、また大事にしていることが関わりから見える事業所です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践している 業務に入る前に政本グループの目指す介護サービス7項目を読み上げ気を引き締めて仕事に取り組んでいる	職員がペア1組となり、掲示の「政本グループが目指す介護サービス7項目」を読み上げ、「本日は1日どんなことに気をつけて業務に取り組むか」を相互に一言伝えあう姿は本事業所の毎朝の光景です。本取組みを通じて職員の自己効力感も高まり、理念の浸透が進んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の敬老会、神社の祭典に招待されている 通りすがりの人たちからも野菜を頂いたりしている	ハーモニカ、津軽三味線などの訪問が定期的であり、事業所でも自治会長経由で敬老会の寸劇を職員がボランティア担当して地域の皆さんに大変喜ばれています。また特別支援学校の生徒がボランティア訪問後就業を希望したことから現在9年働く職員となったとのエピソードもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開かれた施設を目指し、いつでも気軽に「ホームを訪ねてもらえるような雰囲気作りを心掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、市職員、地域包括センター職員、家族と2か月に1回開催している運営推進会議を利用し話し合い親交を深めている	曜日を定め、確実な開催を目指しています。行政、地域の参加はあるものの、家族は「独居だった」「配偶者も高齢」といった事情から現在出席はありません。民生委員から地域で独りで暮らす人の相談をもちかけられるなど、事業所報告だけではないツーウェイの話し合いがあります。	現在家族参加がないため、議事録の中でも特筆すべき点を抜粋、「運営推進会議報告」としてお便りにいれていくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自治会の防災訓練、神社の祭典に参加し、ホームの運動会や催し物の時には招待し親しくさせていただいている	生活保護受給の利用者が8名いるため、長寿保健課だけでなく社会福祉課とも連絡を密に取り合っています。重度化で入浴が難しくなった利用者のケアに助言くださったり、新規入居者の紹介など、地域包括支援センター職員にも常日頃から支えてもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないといけない事を職員全員が理解している 本部の研修、マニュアル、朝礼などを通し身体拘束をしないケアは身につけている	本件に係る研修は法人で年1回位直付け、毎月の「双葉会(定例会議)」でも、資料を唱和して周知しています。「外に～」となれば職員が付き添って事業所の周囲をぐるっと廻り制止や抑制をしないよう努めて自由にしてもらっているため、特に歩行が不安定な人の転倒予防に留意しています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束マニュアル等があり、その都度研修し職員の自覚を高めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人、自立支援事業を利用している方がいる その都度話し合うことで、支援出来ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解、納得していただいている いつでも疑問に答えられるような体制を取っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月発行している「双葉たより」を通じ行事などを知らせている 運営推進会議では意見や要望を言い合える良い機会となっている	毎月発行している「双葉たより」は、請求書と併せて家族に郵送しており、楽しみにしている家族も居ます。「レクリエーションを続けてほしい」「歩かせてあげてほしい」といった内容には速やかに対応し、事業所単独では解決できないものは法人につなげています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日カンファレンスをして職員の話の聞いている	月例とともに毎日のカンファレンスでは「体格のよい場合の身体介助における腰痛予防」など、小さなことでも皆で話し合っています。レクリエーション、防災といった係で責任感も養われ、特に外出企画はバスの席順選定一つも楽しみとして職員間で協力し合い積極的に進めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の個性に合わせ向上心をもって働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	知的障害のある職員のため、今年は食事作りができるように管理者、職員全員で取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は管理者会議がある 職員は本部の勉強会に参加し他施設と交流、情報交換することで、サービスの質の向上を図っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前の生活状況を把握し、変化に対する不安を少しでも軽減し安心して生活出来るように信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人が安心して暮らせるように困りごと、不安な点要望等を聞きながら納得するまで話し合い信頼関係づくりに努め、サービスに生かしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が「ここでどのような生活を送りたいのか」を聞き、介護計画を立て実施している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生経験の豊富な方であることを職員は良く理解しており、尊敬の念をもって接することを心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等を通し本人の様子や生活状況などをお話している 来設出来ない家族には月1回発行の「双葉たより」を利用し行事予定や近況報告をしている「双葉たより」には職員から一言コメントを書き添えている「双葉たより」を楽しみにされている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族 友人がいつ来設されても会議室でゆっくりお話しが出来る雰囲気作りをしている	冬場は感染対策の一環もあるほか、家族がなかなか面会に来られない利用者が目にとすると寂しく感じてしまうことを配慮し、「家族や友人の来訪は面談室で」としています。菓子を食べたりとゆったり過ごしてもらい、親密で濃厚な時間をもってもらえています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日2ユニットが一緒になり、体操、歌、散歩、ゲームなどに取り組み孤立することが無いように支援している 仲良し同士が同じグループで食事をしたり散歩が出来るように配慮している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移動したときは面会に行っている不幸にして亡くなった場合は葬儀にも出席することもある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議、カンファレンスを通じ出来る限り希望、意向に沿った生活が送れる様に情報を共有しケアプランを立てている	午後の入浴後から夕方までが比較的ゆったりしている時間のため、想いを汲む機会として位置付けています。「買い物〜」「〜が食べたい」との要望はカンファレンスで共有させ、実際晩酌や珈琲、好みの化粧品購入と其々が趣を継続しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にこれまでの暮らしぶりを聞き本人の望む暮らしが送れる様に配慮している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の連携を密にし、情報を共有することで一人ひとりの心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよい生活が送れる様に入居者本位の介護計画を立て、家族、協力医と相談しながら、実行している	入所から1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月とモニタリングを丁寧に、また変化には定められた期間に関係なく即座におこなっています。介護記録に長短目標も記載され、介護支援専門員及び計画作成担当者も加わった現場では毎日〇×チェックすることでエビデンスにも叶っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、経過記録、申し送りノート、モニタリングを利用しカンファレンスを開き情報を共有しながら介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の付き添い、散歩、外食など、出来る限り本人に沿ったサービスを心がけている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりにあわせた散歩コースの設定をしている散歩の途中あいさつを交わし、世間話をしたり、野菜、お花を頂くこともある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況の変化に応じ、家族、主治医、職員それぞれの立場でよりよい医療が受けられるように支援している 訪問看護師も適切なアドバイスをしてくれる 紹介状をもって家族、職員本人と専門医に受診することもある	電話での往診に快く応じてくださる協力医に18名全員が変更いたします。専門医は従来からのかかりつけ医ですが、現在通院者はいません。週2回看護師の来訪があり、バイタルチェックや巻き爪処置、爪切り、便秘での座薬のほか、受診のアドバイスもあり、助けられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護では情報を共有し医療の立場から適切なアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人が入院したり他の施設に移動する場合は、病院、施設の相談員と情報交換し、家族と相談しながら安心してその後の生活が送れる様に支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時や「双葉たより」を利用し、本人の現在の状態を知らせている 状態の変化に応じその都度話し合いの場を設け次のステップに進むように対応している	「看取りはおこなわない」としているため、心身状態の変化は微細なことも家族に伝え「いきなり転所」ということのないよう配慮しています。ミキサーとしても口径摂取できないとなれば、協力医の意見と併せ職員、家族に説明を行い、移設手続きを支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルがある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回入居者、職員全員参加の避難訓練を行っている 地域の皆様も協力的である	春秋年2回の防災訓練には職員だけでなく利用者皆でおこなうことを旨とし、どちらか1回は必ず消防署職員の指導を仰ぐとともに、自治会長にも同席してもらうようにしています。防災業者から直接緊急連絡などの机上訓練も2回あるため、計4回災害訓練を実施しています。	地域の訓練には「大変そうだからいいよ」と自治会長の気遣いを受けているようですが、車いす対応などの講座や中高生の避難ボランティア等前向き参加の提案をしていくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、入浴時などは特にプライバシーには配慮している 言葉かけを大切に、スピーチロックにならないように心掛けている	「居室の扉を開けたままにしない」「2名同時対応では、急を要しない一方に理解を求める(「待ってて」で済まそうとしない)」といったハウスルールが徹底され、例えば便汚染した布パンツを箆笥に隠すケースでは、掃除に入った時本人に分からないように洗濯して箆笥に戻しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	口紅を差したり、化粧をする人もいる その季節やその場にあった衣服を自分で選べるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に過ごせるように希望に沿っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容業者に好みの髪型に整髪してもらっている ネックレス、スカーフなどの小物を上手に活用してしている人もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、料理の味味など、職員と一緒に楽しみながら出来る事をやってもらっている 洗った食器は毎回拭いていただいている	毎日出来上がり食材に手を加え提供しているものの、畑で採れた茄子などを調理して一品提添える事もあり、また毎月汁粉、ぼた餅、いなり寿司、赤飯といったリクエストメニューには舌鼓を打つ利用者の姿があります。玉ねぎや落花生の皮むき、食器拭きに熱中する利用者もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は介護記録に記入している 持病のある方は協力医の指示に従い、常食、お粥、ミキサー食とその人に合わせなるべく自分で食べる事が出来るように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、その人にあった方法で口腔ケアを欠かさず行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている「オムツは最後」を合言葉に自立に向けた支援をしている	本人だけでなく家族の経済的負担も考慮して、排泄ケアに向き合っています。おむつ外し行為に職員間で検討し、「外すのは嫌な証拠なのだから止めよう」とリハビリパンツに切り替えて、尿意には都度対応したところ、最終的には布パンツでトイレ使用にまで回復した例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて排泄の状態を観察し、飲食物、運動(身体能力に応じた散歩など)ストレスをためない工夫をしている 主治医とも相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時にはバイタルチェックをし、入浴がゆっくり楽しめるように気を配っている 身体の状態を観察し異常の早期発見に努めている 入浴を安全に行うため洗身、着脱に職員4人体制で臨んでいる	足し湯で週に3回としています。総タイルでも壁面は木目調で温かみがあり、大きな窓で換気が確保されています。毎日入浴している利用者も数名おり、内外に4名の介助者が携わり、かき傷や湿疹の有無チェックも慣行されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日入浴されている方もいる その人にあわせ冷暖房にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師より薬の説明を受けている 確実な服用と誤飲のないようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーション、はり絵、ぬり絵、テレビ観賞、洗濯物たたみ、食器拭きなどその人に合ったことが出来るように支援している 毎日酒、コーヒーを飲んでいる人もいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠足、外食等の計画を立て戸外へ出かけている 毎日の散歩はそれぞれの体調に合わせた距離を歩いている	新聞を見て「ここ綺麗だね～」と会話のなかで外出先を決めることもあり、毘沙門様への花見や初詣は神明神社へと季節の節目にでかけています。近所のラーメン屋のほかにも、利用者が大いに高揚する回転寿司は年2回をめやすに企画しています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食時、買い物時など、自分で選び支払ってもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛ける手伝いをし、自分で要件を伝えてもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室等は気持ちよく使用してもらうため清潔にしている 玄関先には季節の花を植えている 裏の畑では季節の野菜を植え「数当てクイズ」や「重さ当てクイズ」をして収穫を楽しみにしている	「虫のこえ」の歌詞の字は一つひとつが切絵になって模造紙で大きく貼りだされ、職員の思い入れが滲みます。日当たりの良い窓際にソファで日向ぼっこする人もいて、うたた寝をしている利用者に職員が居室で休んでもらおうと声をかけると、「皆と一緒に～」というほど居心地の良い空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった人同士がソファに座り楽しくおしゃべいしている姿が良く見受けられる レクを通して18名と一緒に過ごす時間をつくっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒、布団、テレビ、遺影、食器類など馴染みのものに囲まれて居心地のよい居室作りをしている	ベッド、エアコン、洗面所、カーテン付押し入れが備わり、シンプルながらも1号館のカーテンは緑色、2号館は黄色と細やかな配慮がみられます。藤椅子、伴侶の写真や仏壇が置かれ、また首にスカーフを巻いた大きな犬の置き物を持ち込み可愛がっている女性利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋建てで、バリアフリーである館内には手すりが設置されており、館内の一号館二号館を自由に行き来でき歩行訓練に利用できている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2277102361		
法人名	医療法人 長啓会		
事業所名	グループホーム双葉の家 (2号館)		
所在地	浜松市南区古川町234		
自己評価作成日	平成28年8月15日	評価結果市町村受理日	平成28年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JirvosvoCd=2277102361-008&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JirvosvoCd=2277102361-008&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年9月27日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「双葉の家」は開所より13年目を迎え、よりよい介護をめざして取り組んでまいりました。「双葉の家」ではレクリエーションに力を入れています。毎日午前中の日課としてレクを位置づけ、入居者とその日の職員が一同に会し、ラジオ、リハビリ体操、ボール蹴り、カラオケ、足首運動、散歩など、楽しみながら、下肢筋力の低下防止、認知症の進行予防に努めております。毎日のレクを行う利点は入居者同士が顔見知りになり、孤立させない事、仲間作りが出来る事、職員が協力し合う事が挙げられます。管理者の指導力の下、入居者、職員が大きな家族となり、調和のとれた安らぎのあるホームとなっています。近隣からも、高い評価を頂いています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域とのつながりも濃く、利用者と職員との散策には近所から気軽に声がかかります。白ねぎ、インゲン等野菜の差し入れは日常的で、介護用の靴や紙おむつのほか、いただいた手作り人形は事業所の玄関に愛らしく鎮座しています。下膳や洗濯干し、家事の手伝いと自分で出来ることは自分ですることが定着して効用感も高まるのか、仲間の不穩にはそっと寄り添い話相手になったり、何も言わずとも優しく見守っていたりと利用者のリレーションシップが維持されていて、数字としての介護度より心身状態がよりよく映ります。職員も利用者の意欲や温かな気持ちの伴う行動を有難く感じ、また大事にしていることが関わりから見える事業所です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員皆で考えた理念を掲げ達成された時は、また新しい理念を掲げ、その目標に向けて前進している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に招待されたり野菜を頂いたりして、地域の一員として交流を続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽にホームを訪ねてもらえるような雰囲気作りを心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区役所の職員、自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員をメンバーに定期開催しており、親交を深めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当の南区役所との関係はうまく築けていて、運営推進会議には出席をお願いしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけない事を職員全員が理解している 本部の研修、マニュアル、朝礼などを通し身体拘束をしないケアは身につけている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部や本部等の研修を通して虐待防止関連法案などを学んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人、自立支援事業を利用している方がいる その都度話し合うことで、支援出来ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけて説明しており質疑応答時間をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、食事会などで話し合う時間を、個別意見や要望など聞く機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の定例会にて発言できる場を設けており、各職員が担当をもち、行事ごと担当になった職員が責任をもって行っている。毎日のカンファレンスを開いて話を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部に相談できる窓口があり、職員いつでもが相談できる体制になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正社員は三か月に一度研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換留学制度を行っており他施設と交流する機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談する機会を設けできるだけ本人の思いを聞くようにしている。必要であれば個別面談も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも面談する機会を設け要望や相談など話し合える環境作りに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が「ここでどのように送りたいか」を聞き計画作成を立てて実施しており、状況に応じて見直している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬う気持ちを持ちを忘れずに尊敬の念を持って接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などを利用し本人の様子などを伝え、家族と話す時間も大切にしている。なお双葉便りを作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設をオープンにすることで、気軽に足を運んで頂ける環境作りに取り組んでおり、入居者の要望があれば、買い物など出掛けたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットが合同で体操やレクリエーションを行っており、入居者同士関わりを持てるよう職員が支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移動したときは面会に行っている不幸にして亡くなった場合は葬儀にも出席することもある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話から思いなどを聞き困難な場合は時間をかけ本人の思いをくみ取るよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話聞き、必要であれば関わった方々などにも情報提供を求め、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送等で日々の現状を職員間に共有しており、毎日のカンファレンスでも状態変化を報告、共有しあっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開きできるだけ多くの関係者と話し合う機会を作りケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、介護記録、申し送りノート等を利用し、カンファレンスなど気づいたことを話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議などを通して、入居者の状況を話しそれに対して助言を頂いている。外食や買い物にも付き添っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の秋祭りには神社で神事が行われ、餅投げ時には場所も確保して頂き、お餅が安全に拾えるように配慮して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には協力医の話をし、納得してもらい、良い関係を築けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週2回来設し、日常の変化を伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時には入居が可能な状態かどうか、家族が状況を聞いたり、実際に入院先を訪問し、看護師などから現在の様子を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望を聞き、本人の為に何が一番良いのか、主治医や家族など交えて話す機会を持ち、次のステップに進むように対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急救命講座を受講している。定期的に講習を受講していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回職員全員参加で消防訓練を行っている。災害時には地域の方がの協力を得ている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、入浴時などは特にプライバシーには配慮している 言葉かけを大切に、スピーチロックにならないように心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	服装や髪型等本人の希望を職員が支援したり自己決定できるように職員が複数選り本人に決定出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に声かけや励ましを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容業者に好みの髪型、整髪にってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で出来た野菜を収穫して、調理し、食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は介護記録などに記入している。持病のある方は主治医の指示に従い常食、お粥、ミキサー食とその人に合う食べ方を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の状態にあった口腔ケアを、起床時、毎食後にしている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し声かけやトイレ誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体能力に応じ、毎日の体操や散歩を日課にとしており、主治医と連携を取りながら、自然な排泄ができるように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時にはバイタルチェックをし、入浴がゆっくり楽しめるように気を配っている 身体の状態を観察し異常の早期発見に努めている 入浴を安全に行うため洗身、着脱に職員4人体制で臨んでいる		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れなかった場合やその時の体調や精神状態に合わせて、無理強いをせず本人の希望に沿っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前、日付を本人の前で読み上げ確認をすることで 誤薬がないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ぬり絵やパズルが好きな人、はり絵が得意な人など、個々に合った楽しみがもてるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などは一人一人の身体能力に合わせて行っている。本人の希望によりスーパーや洋品店などにも出掛けたりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にでかけ嗜好品、洋服などは自分で選んで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛ける手伝いをし、自分で要件を伝えてもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の延長としての施設作りに力を入れており、玄関先には、季節の花が植えてある。季節を感じられるような掲示物を作ったり展示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファなど置き、ゆっくり過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染み物を持ちこんでもらい、居心地よく過ごして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋建てで、バリアフリーである館内には手すりが設置されており、館内の一号館二号館を自由に行き来ができ歩行訓練に利用できている。		